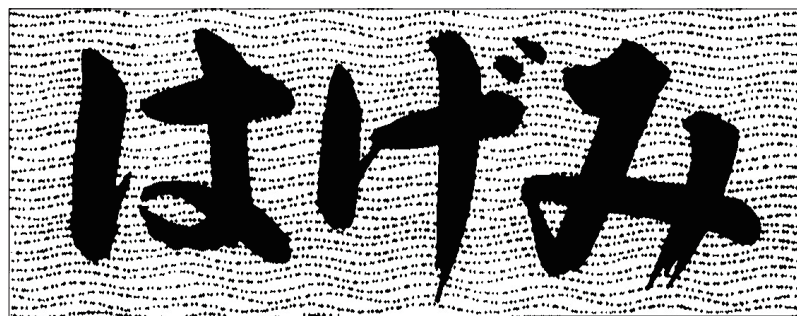




第84号

2021. 3. 5

(公社)津法人会 青年部会

津市広明町121番地

津税理士会館4階

TEL(059)225-1302

<http://www.tsu-hojinkai.or.jp/seinenbu/index.html>

提 言

昨年の初めにトレンドになりそうだったのが「SDGs」ですが、新型コロナでそれどころではなくなった感があります。

一部、テレビ局では秋に「SDGsウィーク」をやっていましたが、一般にはあまり響かなかったのではないのでしょうか。放送内容もSDGsへの理解度がそれほど高いとは思えず、従来の「経済を停滞させても環境対策（江戸時代に戻そうとか言っていました）」「貧困層に施しを」的な、ちょっと古いというか、ピントがずれた内容だったように感じました。

SDGsの本質は、この新たなルールの中で経済も回しながら「大いに利益をあげましょう」ということで、上記のような一步後退ではないと私は考えます。「作って、使い、作り直してまた使う」という経済の流れが今こそ出来つつある中で、ここは比較的ブルーオーシャン（競争のない理想的な未開拓市場）ということもあり、早々に新規参入することで「利益が得られるから始めてみる」というのが、欧米の企業の基本的な考え方です。

経済同友会の櫻田謙悟代表幹事も記者会見で、「サステナビリティ＝環境、と狭く捉えられるのが心配だ。サステナビリティのないところに収益性はない。逆に利益のないところに持続可能性もない。持続可能性と利益を同義のものとして考え

ていく経営が重要だ。」と強調されていました。

SDGsが先行していくことによって、「今から参入すれば、この輪の中に入って、稼ぐことができますよ」「逆に乗り遅れば、あなたのところに発注がいかなくなるかもしれません」という意識が働くのかもしれません。

SDGsは、経済と環境、暮らしやすさの調和を目指すものであり、目標8・9では、経済成長とイノベーションを掲げています。しかしながら、再生可能エネルギー導入や資源保護を強く求める市民団体等からすると、「企業は経済の論理を優先し過ぎている」と映るようです。

そのためだけではないのですが、企業はステークホルダーに対して、ただ利益をあげるのではなく、その目的や企業がもたらす社会的価値を示す必要があるようです。その発信項目としてCSRやCSV、IRなどオジサンの苦手な横文字が並ぶ中に「SDGs」もあがってきます。

この新しい社会の流れは、ISO等のように審査認証を必要としないという煩わしさのなさも手伝って表層的な部分で行っている企業や、バッチを付けることで発信としている企業も多いようですが、志のある企業の経営者の皆様は、すぐにも準備を始めた方がいいかもしれません。

9月例会

『税の話あれこれ』

日 時：2020年9月29日(火) 18:30～19:30

場 所：ホテルグリーンパーク津 6F 伊勢の間

講 師 津税務署 署長 小倉 康彦 氏

9月例会はコロナ対策がしっかりととられたホテルグリーンパーク津の伊勢の間にて、津税務署署長、小倉康彦様に「税の話 あれこれ」として、日本酒のお話をご講演いただきました。

配布資料「日本酒ラベルの用語事典」をベースに、普段何気なく目にしていると分からない、日本酒の製法のことや原料である米の事、特徴を表す語句などなど、沢山のことがラベルを見ればわかるようになっていることを分かりやすく説明していただきました。

三重県の清酒は伊勢志摩サミットで振舞われたことは有名な話ですが、品評会でも多くの清酒が優秀な賞を受賞していることから、令和2年の6月に日本酒の地理的表示で「三重」が清酒では全国6例目、都道府県単位では山形県に次ぐ2例目として登録されたお話もしていただきました。

楽しいお酒の場がほとんどない状況が続いておりますが、一刻も早く新型コロナウイルスが収束して、美味しい三重のお酒で楽しい時間を過ごしたいものです。

租税教育活動報告

津市立藤水小学校

1/22金



1月22日に今年最初の租税教室を、津市立藤水小学校の6年生、50名に行いました。コロナ禍の開催という事で、感染症対策を徹底し授業も5.6限目の2回に分けての開催とし換気をしながら行いました。

津うのまち税金マップを使っの授業では、税金を使って建てられた物や場所を班ごとに考えてもらい、税金クイズでは色々な事に税金が使われている事を学んでもらい、自ら考えてもらうことで税金の大切さ、必要性を学んでもらえたと思います。

クイズ途中にサプライズ登場したシロモチ君と1億円レプリカの登場で先生・児童たちも大喜びし授業も盛り上がりしました。

短い時間の中でわかりやすく税金について学んでもらえたと思います

津市立香良洲小学校

1/28 木



1月28日、津市立香良洲小学校にて租税教室を行いました。税制委員会や役員会の話でもありましたが、新型コロナウイルスの影響もあり、例年より制約を受ける可能性も考えていたのですが、先生方の協力もあり、例年通りの租税教室を無事実施できました。6年生は1クラスあたり24人で、子供たちも何の影響もなく、元気に受け答えしてくれ、逆にこちらが元気をもらえるような明るい雰囲気でした。また、やはりシロモチ君の人気はすごいものがあり、授業の間に引き上げるはずが、なかなか引き上げることができず、苦勞致しました。

グループワーク形式で改めて、税金を使っている・使っていないをどのあたりで切り分けるか説明する難しさを感じました。説明しすぎると逆にほぼ答えを教えてしまうことにもなり、あまりうまく補足できませんでした。また、子供の中にはなかなか書き出しづらい子たちもいたりするので、気軽に書き出してもらう工夫も考えておいた方がいいかもしれません。

授業は概ね順調で、新型コロナウイルスの日常から少し離れられるととてもいい機会になりました。来年もこのような租税教室ができることを願っております。

津市立西が丘小学校

2/2 火



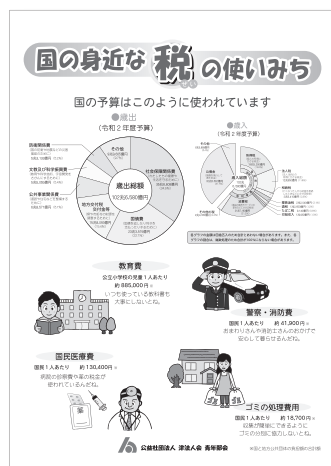
2月2日、西が丘小学校にて租税教室を行いました。

全校児童は700名を超える大きな学校で、6年生は4クラス、計148名の児童を対象に行いました。

学校側からの感染防止対策の提案で、講師役は1クラス2名でした。

また、シロモチ君の登場もなく、いつもより見せ場が少ない気もしましたが、1億円の登場時は相変わらずの反応で安心しました。

次回開催させて頂くときは、シロモチ君が登場出来る世の中になっていることを願います。



いもいもはげみ!

第34回

「バイクはいいぞ！」(第一回)

二年前の夏のある日、突然筆者のもとに友人から一本の電話が入った。

「Kさん、バイクのレース出ませんか？」(K＝筆者)あまりの唐突な内容に暫く言葉を失ったが、話を聞いてみると、ふむふむ、鈴鹿サーキットのフルコースをミニバイク(125cc)で走る四時間耐久レース(鈴鹿Minimoto四耐)があるらしい。ミニバイク程度ならやってみるか、と「よっしゃ是非とも出よう！」と答えてしまったことで、まさかここまで人生が変わってしまうのか！と今となっては非常に感慨深いものがあります。

さて、筆者自身も20歳の時に自動車専用道で250ccのバイクで転倒し大破させてから、バイクとは全く無縁の生活を続けており(むしろ危険な乗物、乗っちゃいけないものという認識が強い)、自分で走る気はさらさら無いので、チーム監督として活動を開始しました。とは言っても、まずライダーが居ません。電話をくれた筆者の友人は走る気マンマンですが、サーキットは超初心者です。いきなり弱っておりましたが、浜松に住んでいる筆者の長男が学生時分からモトクロス競技をやっていたのを思い出しました。(その時点で思い出すほど、筆者はバイクに全く興味がなかった)父親の権限で長男を無理やりロードレースに参加させる(それもいきなり鈴鹿サーキット!)という無謀な計画、そしてライダーが足りないから友達誘ってきてとこれも無茶苦茶です。その頃、ライダーも居ませんが参戦するマシンが無いことに気がつきました。レース車両ですので、中々入手することが難しいですが、これは友人がコネと人脈をフル活用させて、何と練習走行3日前に準備してくれました。ミニバイクでロードレースに参加している長男の友人も参加してくれることになり、何と構想開始から決勝当日まで約40日という期間で、それなりの準備をすることが出来ました。ただ、筆者自身もレースは素人ですので、予選、決勝当日まで、タイヤやスペアパーツの準備、規則書と睨めっこの日々が続きました。

いよいよレース当日です！まずは車検ですが、一箇所不備があり非常に往生しましたが、二回目で合格しほっと一息です。(正直、ドキドキです)続いて予選開始！ロードレースは初めての長男でしたが、流石にオフロードレースで鍛えているだけあって、予選は90台中70代前半とど素人チームにしては上出来のスタートです。

そして、決勝スタート！筆者はサインボードを出さないといけなかったのでピットウォールに居ましたが、いつまで経っても長男のマシンが帰ってきません。おかしいな？と振り返ったら、何と一周目のヘアピンコーナーで転倒し、大破した状態でピットへマシンが戻ってきました。(正直、よく戻ってきて来れました、相当なダメージでした)

そこから、私も必死で修理！！何とか再びマシンをコースに戻そうと懸命に頑張りましたが、ピットストップに約100分を要してしまいました。もうこの時点で規定周回数をクリア出来ないことは分かっていたのですが、最後まで走り切ろうということで、ライダーの皆さんには頑張ってもらいました。チームのみんなが頑張ってくれたおかげで、満身創痍のマシンにも関わらず、ラップタイムがどんどん良くなっていったのは本当に感動しました。

さて、第一回はこの辺で。このまま、この悔しさを糧に、チーム活動が盛り上がるのかと思いきや、このレース以降、長男がモトクロスのタイムが落ちたとかで、二度とサーキットは走らないと連絡してきました。この電話がきっかけで、更に筆者の人生は変わっていくこととなります。

